

編 集 後 記

サミエル ウルマン Samuel Ullmann の「青春」というタイトルの詩に出会ったのは、35 歳くらいのときでしょうか。マッカーサー元帥が座右の銘にしていたとも聞きます。日本語訳はいくつかありますが、以下の翻訳が、最も好きなものです。ある尊敬する先生の部屋の額にあり、それをコピーさせていただいて、今は、それを自分の部屋にかざっています。

科学研究にチャレンジし、科学論文としてまとめあげるまでの努力は決して並大抵ではないのですが、その喜びを忘れないでいたいと思います。

青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。歳月は皮膚のしわを増すが情熱を失う時に精神はしぼむ。苦悶や、狐疑、不安、恐怖、失望、こう言うものこそ恰も長年月の如く人を老いさせ、精気ある魂をも芥に帰せしめてしまう。年は七十であろうと十六であろうと、その胸中に抱き得るものは何か。曰く「驚異への愛慕心」空にひらめく星晨、その輝きにも似たる事物や思想の対する歓迎、事に處する剛毅な挑戦、小児の如く求めて止まぬ探求心、人生への歓喜と興味。

人は信念と共に若く	疑惑と共に老ゆる
人は自信と共に若く	恐怖と共に老ゆる
希望ある限り若く	失望と共に老い朽ちる

大地より、神より、人より、美と喜悦、勇氣と壮大、偉力と靈感を受ける限り人の若さは失われない。これらの靈感が絶え、悲歎の白雪が人の心の奥までも蔽いつくし、皮肉の厚氷がこれを固くとどすに至ればこの時にこそ人は完全に老いて神の憐れみを乞う他はなくなる。

(H.Y.)

編 集 委 員

(長) 蒲 生 忍

岡 島 康 友	神 谷 茂	川 村 治 子	古 賀 良 彦
杉 山 政 則	照 屋 浩 司	松 村 讓 兒	吉 野 秀 朗

杏林医学会雑誌 第 42 卷 第 4 号

URL : <http://plaza.umin.ac.jp/~kyorinms/>

平成 23 年 12 月 31 日発行

編集人 蒲 生 忍

発行所 杏 林 医 学 会

東京都三鷹市新川 6-20-2

杏林大学 医学図書館内